



(昭和11年生)

来し方を振り返り今思うこと

東区・紫南支部
(今村小児科アレルギー科) 今村 正人

少子超高齢社会の到来、人口減少という、かつてない試練にさらされている我が国ではあるが、平成から令和へと新しい時代を迎え、人々の心に新たな光明が差し込んできた感がある。大きな節目の時を迎えている。

人工知能をはじめ、著しい科学技術の進歩、高度な情報社会、一方、地球温暖化による気象変動・異常気象、自然災害、政治の混迷、民主化抑圧、侵略、紛争、貧困、難民問題等々恐るべき状況が地球規模で人類にのしかかってきている。劣悪な環境下での感染症、栄養失調で命を落とす子どもたちがなんと多いことか。5歳前に亡くなる子どもの数は2017年、540万人という。胸が痛む。我々身近にも児童虐待、いじめ、引きこもり、孤独死、自殺等々痛ましい状況があり、大きな問題である。

わが身を振り返ってみると、平和な母国に生まれ育ち、近所の子どもたちとトンボを追いかけまわしてめいっぱい遊んだ子供時代、畑を走りまわって農家のおじさんに叱られた思い出、身近に戦火を経験して疎開、転校を繰り返した小学時代、終戦後は食糧難で米ごはんにはありつけず、麦、いも、野菜、めざし、漬物、時に鶏肉にありつけた。小学5年生の時、母他界。中学時代も地方で過ごしたが日々の生活は落ち着き、1学年500人のマンモス校で学校生活を楽しんだ。当時は学習塾などなく、折々に行われる校内でのテストに高校受験を少々意識していた。受験戦争などなく今思えば良き時代であった。高校時代は最初の2年間、寮生活を送った。2段ベッドがずらりと並んだ大広間で大勢の学友と寝室を共にした。冬の寒い時でも屋外の洗い場での手洗い、洗顔、洗濯。寮に風呂はなく近くの

銭湯での入浴、その折、時に店に立寄って食べたちゃんぽんのおいしかったこと。高校生活最後の1年間は大学受験を考えて脇田電停近くで下宿生活を送った。畳3畳の部屋は机とふとんで足の踏み場もないくらいだったが、落ち着いて勉強ができた。いまだに忘年会だ、賀寿の会だといっては卒業同期で集まって旧交を温めている。

浪人生活を経て大学医学部に学び小児科医師として今日に至っている。大学医局での研修時代、当時は無給待遇が当たり前、関連病院・診療所で診療を手伝い生計を立てていた。小児科医師となって5年目、離島の県立病院に勤務、小児科開設第1号の1人医師として1年間、主に子どもの急性期疾患にまみれた。大学に戻ってしばらくして9年半、小児科医師、精神科医師、職員共々重症心身障礙児医療に取り組んだ。病院管理職として事に当たつたことも貴重な経験であった。

昭和56（1981）年小児科医院開設、以来38年余が経過して現在に至っている。その間、子どもたち、母親をはじめ家族の方々、職員と不安な気持ち、心配な事、苦しみ、そして喜びを共にしてきたことを思い出す。また、医師会が果たす多岐にわたる役割、医師会を支える職員の頑張りを改めて認識した。多くの会員の先生方、諸先輩方と知りあえたことをありがたく大切に思っている。今は息子が引き継いでくれている。

ところで、今や2人に1人ががんを患う時代、私もご多分に漏れず6年余り前に噴門周囲がんの手術を受け、その後肺転移、内視鏡手術と抗がん剤内服治療で奇跡的に（？）事なきを得て今日に至っている。ほんとうに

ありがたく、感謝の気持ちでいっぱいである。加齢に加えて他の要因も加わり、日々の暮らしに支障が出てきている。それもこれも生活習慣の積み重ねの結果であろうし、生物たるヒトの宿命と捉えて静かに自分を見つめていくことにしたい。

思えば、数年前まで医師たる職業人として仕事に、求められた役割に可能な限り力を注いできたつもりである。もっとも若いころは折々に外国旅行にも出かけたし、国内の小旅行、コンサートも楽しんだ。今では体力・気力が衰えてきている身であるが、わが国男子の平均寿命、健康寿命を一応クリアして現在在ることをありがたいと思っている。これまで支え励まして下さった多くの方々に思いをいたす昨今である。「男は仕事」と当たり前のこととして子育てをはじめ、家庭のことは家内まかせで生きてきた者を、いつでも、どんなことでも手助け支えてくれた家の労苦を思うことである。これから的时间、おいしいものを食べ、コンサートにも出かけ、小旅行もして、孫たちの成長を楽しみにして過ごしたいと思うが、さて、どうなることか？

ところで先般、ローマカトリック教会フランシスコ教皇が来訪され、長崎、広島で世界の平和と安定、自然環境を壊し人類を破滅させる核兵器の廃絶を強く訴え、相互信頼の上にこそ平和があると祈りを込めたメッセージを残された。また東京では上智大学学生を前に講演、公正で人間的であること、正直で誠実な人になってほしいと感銘深いメッセージを贈られた。世界中の人々が、このメッセージを胸に平和な世界を実現させてほしいし、実現させなければならない。

子どもたち、若者にはビジョン（目標、目的）を持って元気に明るく我慢強くチャレンジし続けてほしい。我々高齢者も未来に向かって何かとてつもなく大きな夢を描いてみたら楽しいだろうと思う。桜島に橋を架けるとか、

宇宙旅行に出かけるとか・・・。

